BUS DRIVER JOB INFORMATION

Driver's Interview vol.11

「バス運転手」という仕事。

函館バス株式会社
運転手　松原健太郎

函館バスの江差営業所に所属する松原健太郎さん。昨年12月で入社丸8年を迎えた。以前は親の代から続く老舗の飲食店を家族で経営していた松原さん。店を閉め、函館バスの運転手に転職したのは37歳のとき。かねてから家が江差営業所から近所のため、函館バス自体は彼にとって近しい存在だった。

普段は基本的に江差町を拠点に北斗市、木古内町、八雲町熊石などを結ぶ路線バスを担当しているが、週に1～2回は函館まで乗ることもある。「普段から思うことですけど、バス停で寒い中たくさんの人が待っているじゃないですか。到着してあたたかい車内に入ってホッとした表情をしてるところを見ると『社会に役立つ仕事をしている』という実感が湧きますね。やりがいも感じます」。

日々、気にかけていることはコンディション維持。10代のころはサッカー部に所属しており、スポーツ体質なために体を動かしていないと調子が狂う。だからこそ日々の筋トレは欠かさない。「軽めの筋トレですけど、これをやるのとやらないのでは身体の調子が全然違うんです」。

松原さんがこの職場に魅力を感じるところは人間関係の良さだという。「社員みんなが仲がよくて居心地がいいです。あとは休みがしっかり取れることも大きいですね。僕は親と同居しているので、親の病院の診察で江差から函館まで運転しなきゃいけないことが結構あるんです。そういうときに有休がしっかり取れるのはすごく助かる。自分にとってはやりがいがあって、休みがとれる魅力的な職場です」。